

平成 2 1 年度 実施事業	<b>事務事業名</b> 財団法人登別市文化・スポーツ振興財団事業補助金
-------------------	--------------------------------------

区分	番号	名 称
章	5	豊かな個性と人間性を育むまち
節	9	
施策	9	
小分類	9	
主要な施策	9	
事務事業番号	001	事務事業コード 59999001 事業開始年度 平成 8 年度 事業終了年度 平成 - 年度

会計種別	一般会計	予算書上の事務事業名	財団法人登別市文化・スポーツ振興財団事業補助金
------	------	------------	-------------------------

部 名	教育部	グループ名	社会教育G
-----	-----	-------	-------

統合前または名称変更前の事業名	
-----------------	--

**事務事業の目的と成果**

対象	(何を対象にまたは誰を対象にした事務事業なのかを具体的に記載ください) 市民
手段 (事業の内容・活動)	(目指す姿を実現するためにどのような手法で行うのか、事業の内容を具体的に記載ください) ・財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が実施する事業に対し補助金を交付する。 【平成 2 1 年度実施事業】 文化振興事業 ・文化教室開催事業（初心者英会話教室外 6 教室） ・芸術鑑賞事業（道新ジュニアクラシック外 2 事業） ・共催事業（市民文化祭外 2 事業） スポーツ振興事業 ・スポーツ教室開催事業（ジュニアテニス教室外 9 教室 1 事業） ・スポーツ大会開催事業（市民スポンジテニス大会外 2 大会） ・共催事業（市民ゲートボール大会外 1 大会）
目指す姿 (成果)	(事務事業を実施することでどのような状態にしたいのか具体的に記載ください) 市民が、文化やスポーツに触れる機会を拡充し、文化、スポーツ活動の振興を図る。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称をすべて記載ください) 登別市補助金等の事務取扱に関する規則

**指標の推移**

区 分		単位	区分	21年度 実績	22年度 目標	23年度 目標	24年度 目標	25年度 目標
成果 指標	参加人数（延べ）	人	目標値	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
			実績値	3,556				
			目標値					
			実績値					

事業費の推移

区 分			単位	21年度 決算	22年度 当初予算	23年度 見込	24年度 見込	25年度 見込	23～25年度 合計
事業 の 財 源 内 訳	国庫支出金	名称	千円						0
	道支出金	名称	千円						0
	地方債	名称	千円						0
	その他	名称 生涯学習振興基金積立金	千円	4,200					0
	一般財源	名称	千円	429	4,418	4,408	4,408	4,408	13,224
合 計				4,629	4,418	4,408	4,408	4,408	13,224
(参考) 上記事業を実施する上で 必要となる人件費			職 員	千円	99	104			
			嘱 託 員	千円	0	0			
			臨時職員	千円	0	0			
			合 計		99	104			

担当グループによる事務事業評価の内容

1. 事務事業の妥当性について			
今後市が事業主体として実施していくことは妥当ですか？	→	妥当である 妥当ではない	→ 妥当である理由、妥当ではない理由は何ですか？ 市民の文化やスポーツの振興を図るため、登別市文化・スポーツ振興財団に補助金を交付して支援するのは妥当である。
2. 事務事業の成果について			
成果はあがっていますか？	→	成果があがっている どちらかといえばあがっている 成果があがらない	→ 成果があがっている理由、あがらない理由は何ですか？ 多くの市民が、芸術鑑賞やスポーツなどの事業に参加する機会が確保されている。
3. 事務事業の成果向上について			
成果を向上させることはできますか？	→	大きく向上させることができる 少し向上させることができる 向上させることはできない	→ どのように向上させますか？ 向上させることができない理由は何ですか？ 市民ニーズを踏まえ更なる事業内容の検証、事業展開を進めることで、事業の拡大や参加者の増加につなげることができる。
4. 事務事業の経済性・効率性について			
成果を落とさずにコスト（予算や人工、所要時間）を削減することはできますか？	→	削減できる 削減できない	→ どのような方法でコストを削減しますか？ 削減できない理由は何ですか？ 市民の文化やスポーツに対するニーズは高まっており、その事業の展開を図るための補助金の削減は難しい。ただし、毎年補助対象事業を精査することにより、効果的な補助金の交付に努める。

担当グループによる評価

維持	左記の評価を選択した具体的な理由（根拠）	文化・スポーツに対する市民の関心が高まってきている中、文化・スポーツ振興財団の役割は重要であり支援することが必要である。 市民のニーズを捉えた新事業も組み込まれており、今後も効果的な補助金の交付に努める。
----	----------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------

総合的な評価（当該事務事業の方向性）

維持	備考
----	----

評価の種類

- 拡大（事務事業の規模や経費を拡大し、これまで以上に強力的に推進する事務事業）
- 維持（現状の対象や目指す姿、手段などに変更が無く、今後も実施する事務事業）
- 改善（現状の手段や経費などを見直し、成果指標の向上等を行う必要がある事務事業）
- 休止（暫定的に休止する事務事業）
- 終了（当初から決められていた事業期間が終了または成果品等が完成し、目的を果たした事務事業）
- 廃止（当該事務事業の予定を変更し、廃止する事務事業）